

現状と課題

- 雪まつり発祥の地としての十日町雪まつり、大地の芸術祭、松之山温泉のむこ投げ・すみ塗り、川西大白倉の奇祭・バイトウ、越後まつだい冬の陣、雪原カーニバルなかさとなど地域資源を生かしたイベントや祭りは、地域活性化及び本市をPRする上で重要な役割を担っています。今後も各地域のイベントや祭りの充実と連携を図るとともに、新たな掘り起こしも必要です。一方で、各地域イベントの見直しの必要性も指摘されています。
- 本市は、国立公園の清津峡をはじめとした景勝地やブナの森、棚田に代表される農村の原風景、多様なイベントなど、さまざまな観光資源を有しており、各地から多くの来訪者があります。観光地としての魅力を一層高めるために、市民ぐるみで来訪者を温かく迎え、そして送り出す機運を醸成するなど、もてなしの心を育む努力が必要です。
- 都市部や他地域などとの交流は、地域特産物の販路拡大や交流人口増加による経済効果、また、人とのふれあいやさまざまな体験を通して教育面などにも大きな効果が生まれています。一方で、主催団体などの経済的な負担の増加やリーダー不足などが生じています。また、都市部から定住や交流を希望する人に対する支援も必要です。
- 十日町・中里・松代・松之山地域では、地域の人材や資源を活用し、都市部の児童・生徒を対象に農村体験旅行として越後田舎体験事業に取り組んでいます。この取組の成果をより大きなものとするため、受入対象地域や民泊農家の拡大を図るとともに、農業など地域のありのままを体験できるプログラムや特徴あるメニューづくりが必要です。
- 交流拠点施設として、越後妻有交流館「キナーレ」や地場産業振興センター「クロス 10」、まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」、森の学校「キョロロ」、道の駅などがあります。一層の効果的な活用を図るためには、これらの施設を核として、他の施設との広域ネットワークを強化する必要があります。さらに、越後妻有交流館は、大地の芸術祭の魅力を取り込む必要があるため、施設の機能をさらに向上させます。
- 本市を含む広域7市町村が連携し設立された雪国観光圏は、「雪を通じた国際観光の展開」「雪国らしい新たな観光産業づくり」「滞在型観光の推進」「地域づくり・人づくりの推進」を観光圏整備計画の基本方針に据え、事業に取り組んでいます。この計画に基づく様々な事業に積極的に支援していく必要があります。
- 姉妹都市イタリア・コモ市とは、市と十日町・コモ姉妹都市交流協会が連携し、相互訪問のほか、市民レベルでさまざまな文化交流を行っています。引き続き姉妹都市交流協会と連携し、姉妹都市交流をより活発にしていく必要があります。

【まちづくりの目標値】

項 目	現 状	目 標
イベント・祭りの入込数 (冬イベント、きものまつりなど) ※大地の芸術祭を除く	468,000 人 (平成 21 年度)	500,000 人 (平成 27 年度)
越後田舎体験の入込数	6,100 人 (平成 21 年度)	10,000 人 (平成 27 年度)
交流拠点の入込数 (キナーレ、クロス 10、農舞台など)	241,000 人 (平成 21 年度)	300,000 人 (平成 27 年度)

(資料：新潟県観光動態の概要)

施策の展開

1. イベントの充実

- ① 市民との協働などによりイベントの見直しを行いその充実を図るとともに、各地域が連携し、祭りやイベントなどの観光資源を効果的にPRできる体制づくりを進めます。
- ② 地域特性や観光資源を生かした全市的な新しい観光イベントづくりを検討します。

【主要事業】
・観光振興事業

2. もてなしの心の醸成

- ① 市民や観光関連産業に携わる関係者を対象としたセミナーや研修会を開催し、もてなしの心の向上に努めるとともに、ボランティアカイドの積極的な育成と活用を図ります。

【主要事業】
・十日町市観光協会助成事業

3. 地域間交流の推進

- ① 都市部や他地域などとの交流活動を積極的に促進するため、地域住民や地域間交流団体、経済団体、学校などの交流活動を支援します。
- ② 都市住民のニーズを把握し、市の魅力のPRに努めます。
- ③ 定住や交流を希望する人への情報発信や地域団体の受入活動を支援します。
- ④ Iターン状況の実態を把握するとともに、Iターン者のネットワークをつくり生活や活動の支援を行います。

【主要事業】
・ふるさと回帰支援事業
・地域交流事業

4. 体験型観光交流の推進

- ① 越後田舎体験事業の受入対象地域や民泊農家を拡大し、地域の活性化と交流人口の増加を図ります。
- ② 地域の特性を生かした雪国体験、滞在型市民農園などにより基幹産業である農業や織物の体験、里山や棚田などを活用した魅力的な体験プログラムづくりを支援します。
- ③ 本物の農業体験を提供するため、農業者や高齢者などが培ってきた豊富な経験や技術を生かし、インストラクターの養成を図ります。

【主要事業】
・越後田舎体験推進事業

5. 交流拠点の活用と広域ネットワーク化

- ① 各交流拠点は、交流の場や地場産業などの情報発信拠点として更に機能の強化に努めます。
- ② 各交流拠点施設間による共同イベントの開催や他の公共施設などとのネットワーク強化を図るとともに、地元農産物や特産品等の販売拡大を支援します。
- ③ 越後妻有交流館の活性化を図るため、通年で大地の芸術祭が体感できる施設に改修を行います。
- ④ 交通アクセスの利便性が高いまつだいふるさと会館及びまつだい駅周辺を整備し、交流拠点としての機能を高めます。

【主要事業】
・キナーレ・アート作品設置・運営事業
・まつだい駅周辺整備事業
・観光施設整備事業

6. 雪国観光圏との連携

- ① 雪国観光圏整備計画の実現を図るため、雪国観光圏が実施する事業に積極的に支援します。滞在促進地区に選定された松之山温泉地区及び当間高原地区は、雪国観光圏内の他の選定地区と連携し滞在型観光を促進します。
- ② ホワイトミュージアムと位置付けている本市の個性的で魅力的な冬の行事やイベントを通じ、雪国観光圏と連携して圏域内観光ルートを開発し、誘客を図ります。

【主要事業】
・雪国観光圏推進事業

7. 国際交流の推進

- ① 十日町・コモ姉妹都市交流協会と連携し、幅広い市民の参画により青少年交流や経済交流、姉妹校交流など各種交流を図ります。

【主要事業】
・コモ市国際交流事業

現状と課題

- 他の地方都市と同様、本市においても、自動車社会の進展とともに公的施設や商業施設などが広範囲に立地したことにより、中心市街地の空洞化という深刻な課題を抱えています。近年は、商店街の低迷に加え、空き地や遊休施設が増加し、都市機能の維持と活力の低下が懸念されつつあります。
- 中心市街地はこれまで、商業や各種サービスのほか、駅などの交通結節点が身近に立地し、徒歩圏内で生活が満たされるなど、便利で快適な住環境を市民に提供してきました。そして今日も、中心市街地は市域のまさに“顔”であり、周辺地区の市民活動や企業活動にとっての拠点であるほか、周辺地区と共に支え合い発展するという大切な役割を担っています。
- 現在、既存施設の中には、低利用の状態が続くものがあります。市域全体の活性化のためには、既存施設の有効活用や都市のコンパクト化に取り組むことにより、地域の“顔”の再生を図ることが重要です。
- 中心市街地の賑わいを創出するために、多くの人を呼び込み、大きな人の流れをつくることが重要です。そのため、魅力的な交流拠点の整備と、それを核として、商店街などの市街地内を快適に移動できる動線を確保することが欠かせません。

施策の展開

1. 空き地と遊休施設の利活用

① 空き地や遊休施設を利活用するため、災害時の避難場所や冬期間の排雪場所として空き地活用を進めるほか、遊休施設については、商業や事業所による利活用を促す施策を充実させていきます。

【主要事業】

- ・ 空き店舗活用促進事業
- ・ 遊休工場等活用促進事業

2. 交流拠点等の整備・充実

- ① 交流拠点であるキナーレ（越後妻有交流館）、そして地場産業の発信拠点としてのクロス 10 は、市内外から更に多くの人を呼び込むため、その魅力と機能を向上させます。
- ② 中心市街地の商業やサービス業の活力向上を支援しながら、更なる誘客のための核施設と市街地内の面的連携強化など、検討を進めます。

【主要事業】

- ・ キナーレ・アート作品設置・運営事業
- ・ 十日町地域地場産業振興センター助成事業

3. 交流拠点を結ぶ動線の整備

- ① 交流拠点と商店街などを結び市街地内を快適に移動できるための歩道の整備を進めます。
- ② 冬季の除雪も含め、引き続き既設市道の維持管理を徹底して行い、通年で来訪者や市民が安全・安心に移動できる環境づくりに努めます。

【主要事業】

- ・ 都市環境整備事業
（ステージ南側進入路）

4. 周辺地区と中心市街地の更なる連携強化

- ① 地域に根差した産業が息づき、豊かな自然とともに、閑静で良質な住環境を抱える周辺地区。そして、多様な産業と都市的な空間を有しつつ、市外県外への情報発信力を併せ持つ中心市街地。それぞれの特性を生かしながらの地域振興に、特に今後は注力します。
- ② 具体的には、双方向のアクセスを、道路の機能維持や公共交通により一層高め、活発な往来を促します。
- ③ さらに、交流拠点や交通結節点を市域の“顔”や“玄関”にとらえ、市街地への来訪者など、多くの人や物を周辺地区に循環させる仕組みづくりを進めます。一方で、周辺地区の地域資源を更に掘り起こしながら、中心部に情報などを集め、十日町ブランドを全国に発信していきます。

【主要事業】

- ・ 中心市街地活性化基本計画の策定（中心市街地活性化推進事業）

現状と課題

- 本市の多様な観光資源を効果的に売り込むため、この指針となる観光戦略を確立する必要があります。
- 本市には豊かな自然と雪国文化、国宝火焰型土器に代表される歴史的資源、雪やきものなどを生かした祭りやイベント、ブナの森や棚田などの里山景観、温泉、スキー場、リゾートホテルなど数多くの観光資源があります。中でも温泉は観光の大きな柱となっており、古くから湯治などの保養に利用されてきた日本三大薬湯の松之山温泉をはじめとして、趣のある温泉地が点在しています。これらの保全と充実を図るとともに、新たな観光資源の発掘や既存資源の活用を推進し、誘客促進を含めた地域活性化に努める必要があります。また、食の安全や健康志向を背景に、魚沼産コシヒカリやきのこと、山菜等に代表される本市の魅力的な食材が注目されていることから、観光資源として活用を図る必要があります。
- 国内外でアートを活用した地域づくりが進められている中、平成12年から開催している「大地の芸術祭」は、世界的レベルをもつ現代アートの国際展として、国内外で高い評価を得ています。このことから、越後妻有の里山に点在する作品を大地の芸術祭の会期中だけでなく、他の観光資源と共に活用した通年観光の方策、大地の芸術祭グッズの開発やPRがより必要です。また、作品の経年劣化に付随する維持管理と作品改修について年度計画を検討する必要があります。また、「協働のまちづくり」の視点から、大地の芸術祭実行委員会のあり方や運営について検討する必要があります。
- 多様な観光資源を有機的に結びつけ、地域が一体となって魅力的で個性豊かな観光地づくりを展開するとともに、着地型観光を推進し観光客の増加を図る必要があります。
- 十日町雪まつりをはじめとする各種イベントや国立公園、温泉など、多様な観光資源を有していますが、当地域の知名度は全国的には高いとはいえない面があることから、情報発信の強化・充実が必要です。
- 十日町市観光協会は観光事業を担っており、ほくほく何でも案内所をはじめとして観光資源等のPRを行い誘客に努めています。一方、十日町市観光協会及び各地域の観光協会支部は、十分な活動が行えるよう体制の強化を図るとともに、財政基盤を確立するための支援が必要です。
- 本市の観光スポットは、大半が小規模であり、各所に点在しています。周遊型観光による誘客を促進するため、近年の自然を求める観光ニーズに対応した道路空間の整備が必要です。

【まちづくりの目標値】

項 目	現 状	目 標
名所・景勝地の入込数 (清津峡、美人林など)	241,000人 (平成21年度)	300,000人 (平成27年度)
大地の芸術祭の入込数	375,000人	500,000人
スキー場の入込数 (上越国際当間スキー場、松之山温泉スキー場など)	46,000人 (平成21年度)	50,000人 (平成27年度)
温泉地の入込数 (松之山温泉、清津峡温泉、芝峠温泉など)	1,022,000人 (平成21年度)	1,200,000人 (平成27年度)

(資料：新潟県観光動態の概要)

施策の展開

1. 観光資源の保全・活用

- ① 国立公園の清津峡をはじめとした豊かな自然景観と歴史的資源の保全、雪国文化の継承、祭りやイベントの充実、観光施設の整備・活用などを行い、魅力的で特徴のある観光振興を進めます。
- ② 観光の大きな柱となっている温泉のPRに努めるとともに、祭やイベントなどを効果的に組み合わせ、四季を通じて観光客の増加を図ります。
- ③ 温泉や冬のイベントと連携することにより、松之山温泉スキー場、上越国際当間スキー場、なかさと清津スキー場など利用客の増加を図ります。
- ④ 本市ならではの安全な食材を活用し、マクロビオティック（穀物菜食）の食事を提供できる飲食店や宿泊施設の育成・拡大を図ります。

【主要事業】

- ・ 各地域観光施設整備事業

2. 大地の芸術祭の推進

- ① 大地の芸術祭は、現代アートを活用した地域づくりモデルとして国内外から高い評価を受けています。地域活性化や「協働のまちづくり」の観点から多くの市民の参加を促すとともに、自立的で持続的開催ができる実行委員会のあり方を検討し、「越後妻有ブランド」の確立に向け事業を推進します。
- ② 大地の芸術祭の作品を他の観光資源とともに活用する相乗効果により通年観光を促進します。大地の芸術祭の来訪者に対する二次交通の確保、作品案内看板の設置や通信端末を利用した観光情報の提供、越後妻有らしいもてなしの提供、グッズ開発やPRなどを行います。
- ③ 観光資源である作品の維持管理や作品改修を市民参画により計画的に推進します。

【主要事業】

- ・ 大地の芸術祭運営事業
- ・ 大地の芸術祭集落コミュニティデザインプロジェクト事業
- ・ 大地の芸術祭ディレクター委託事業
- ・ 大地の芸術祭二次交通対策事業
- ・ 大地の芸術祭受入対策事業
- ・ キナーレ・アート作品設置・運営事業

3. 観光資源の周遊計画化

- ① 誘客促進の強化のため、十日町市観光協会による着地型観光商品の企画・販売を支援します。
- ② 観光客のニーズに対応して、定期観光バスなどの二次交通を整備するとともに、大地の芸術祭作品・体験施設・観光施設・文化財・文化施設やイベントなどを有機的に組み合わせたモデル周遊コースや広域観光ルートを設定し、観光関係機関との連携・協力により誘客の増加を図ります。

【主要事業】

- ・ 十日町市観光協会助成事業

4. 誘客の強化・充実

- ① 当地域の知名度を高めるため、インターネットの活用をはじめ、各種宣伝媒体の活用や観光キャラバンの実施などに努めます。
- ② 外国人観光客の誘客促進を図るため、外国人対応マニュアルや外国語版パンフレット等を制作します。
- ③ 国内外からの誘客を促進するため、観光看板の外国語併記や宿泊施設向け研修会を実施するなど受入体制を整備します。

【主要事業】

- ・ 観光誘客事業

5. 観光協会への支援

- ① 十日町市観光協会の自立を促進するため、法人化後における組織の強化や自主事業の実施による収益力の強化を支援するとともに、各種事業や運営費などへの財政支援や事業連携に努めます。

【主要事業】

- ・ 十日町市観光協会助成事業

6. 美しい道路空間の整備

- ① 周遊型観光を促進するため、地域住民と一体となって、美しい道路空間の整備を図ります。
- ② 観光客の利便性向上のため、観光案内看板の修繕やデザイン性に配慮したきめ細かな案内看板の整備に努めます。

【主要事業】

- ・ 大地の芸術祭受入対策事業

現状と課題

- 新潟県、本市などが出資する第3セクター(株)当間高原リゾートは、現在、年間 25 万人の観光客が訪れるなど市の観光交流拠点の中核となっています。今後さらに宿泊客をはじめ、来訪者の増加を図る必要があります。
- 当間多目的グラウンド（クロアチアピッチ）は、2002FIFA ワールドカップにおけるクロアチア代表チームのキャンプにより、高い評価を受けました。これを契機に多くのプロサッカーチームなどがキャンプに訪れ、当間高原リゾートの知名度を高めています。リゾートとしての魅力を更に高めるため、当間高原リゾート内の公共施設や民間施設と連携を進める必要があります。

【まちづくりの目標値】

項 目	現 状	目 標
当間高原リゾートの入込数	250,000 人 (平成 21 年度)	300,000 人 (平成 27 年度)

(資料：新潟県観光動態の概要)

1. 当間高原リゾートの振興

①当間高原リゾートとの連携を一層深めるとともに、あてまフォーラムや、のぞみの郷新塾会を中心とした地域づくり団体が行う各種イベントなどを支援し、当間高原リゾートの振興を図ります。

【主要事業】

・あてまフォーラム運営事業

2. 教育・スポーツ分野等との連携強化

- ①当間高原リゾートの知名度を高めるため、プロサッカーチームをはじめとする各種スポーツチームの誘致を図ります。
- ②当間高原リゾートと当間多目的グラウンド、当間体験交流施設「ナトゥーラ」などの公共施設との連携活用を促進します。
- ③リゾートをより魅力あるものとするため、あてま森と水辺の教室「ポポラ」の活動を支援します。

【主要事業】

・あてまフォーラム運営事業